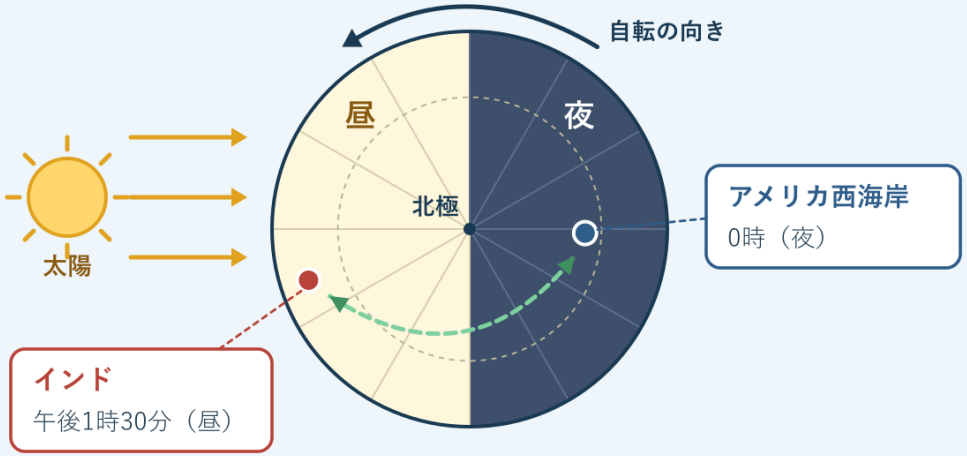
インドのICT産業が伸びたわけ（時差と英語）

なぜインドで、ICT（情報通信技術）の産業が大きく伸びたのでしょう

北極の上から見た地球（模式）



インターネットで、仕事のデータをやりとりする

2つの地域は地球のほぼ反対側。片方が昼のとき、もう片方は夜。

時差の例（アメリカ西海岸が夏時間でない時期）



インドの9時は、アメリカ西海岸では前日の19時30分（時差13時間30分）

インドでICT産業が伸びたわけ

1. **英語を使う人が多い**
   英語が準公用語として使われ、英語の国の仕事を受けやすい
2. **数学や理数の教育**
   数学などの教育に力を入れ、技術者が多く育っている
3. **賃金が比べて安い**
   アメリカなどと比べて、人件費をおさえられる
4. **アメリカとの時差**
   アメリカの夜のあいだに、仕事を進められる（左の図）

→ **インドのICT産業が伸びた**

ソフトウェアの開発などで、アメリカなどの会社の仕事を受けて大きく成長した

1〜4 の条件が組み合わさった



ベンガルール

インド南部の都市。ICT関連の会社が集まり、「インドのシリコンバレー」とよばれることもある

※ 模式図。時差は標準時の経度（インド 東経82.5度、アメリカ西海岸 西経120度）から計算。夏時間の時期は1時間短い。